

平成21年度～23年度 習志野市事務事業評価表

1. 事務事業基本情報

事業名	No.73 教育研修事業			担当課	指導課			予算費目名	款	項	目	
事業概要 及び目的	市内小・中学校の教職員を対象に、専門性の向上を図ることを目的に、教職経験や職務に応じた研修を実施する。			成果指標 研修の機会がいきわたっているか（教職員一人あたりの研修参加回数）	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度			
	計画値算出の根拠…教職員1人の研修参加回数はH17年4.9回 H18年5.8回 H19年5.7回。新規採用教員の増加に伴い、研修の必要性が高まっていることを踏まえ、設定。				予算額（単位：円）	1,328,000	1,232,000	1,162,000	1,228,000			
	成果目標 計画値				7.0 回	決算額（単位：円）	1,095,588	985,000	1,047,200			
					従事職員数	1	1	1				
事業の 位置づけ	章	1	豊かな人間性と暖かさを育むまち	★左記施策（号）との結び付き 研修事業を充実させることにより、確かな指導力と教員としての使命感・責任感をもった人材が育成され、小中学校の教育の充実が図られる。	従事延べ日数	10	10	10				
	節	1	豊かな人間性を育む教育の推進		民間活力の導入	現状は？：■実現している □将来可能性はある □将来困難だが可能性はある □余地なし						
	項	2	次代をひらく学校教育の充実		相手は？：□市民 ■市民活動団体 ■企業・学校等							
	号	2	小中学校教育の充実		形態は？：講師として研修事業に協力していただいている。							

2. 進捗状況

					平成21年7月21日記入						平成22年6月2日記入						平成23年4月15日記入							
年度	21年度評価（20年度実施した事項についての評価）				22年度評価（21年度実施した事項についての評価）				23年度評価（22年度実施した事項についての評価）															
実施計画上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由										
完了した事項	・教科領域等主任研修（24回）、実技研修会（25回）、校長研修会（7回）・教頭研修会（6回）等、20種の研修会延べ146回の研修を開催、延べ4500人弱が参加。				・教科領域等主任研修（24回）、実技研修会（25回）、校長研修会（7回）・教頭研修会（6回）等、20種の研修会延べ150回の研修を開催、延べ4500人弱が参加。				・教科領域等主任研修（24回）、実技研修会（25回）、校長研修会（7回）・教頭研修会（6回）等、20種の研修会延べ150回の研修を開催、延べ4500人弱が参加。															
継続している 事項	・				・				・															
未着手事項	・				・				・															
改善案	・新学習指導要領により、新たに開始されることになった「小学校外国語活動」に備えた研修の場を新設した。また、特別支援教育研修を担当者別に分けて開催など改善した。				成果指標 実績値 達成率 6.4回 91.4%				・特別支援教育研修の必要性が高まり、通常学級担任対象の研修を開設した。負担軽減も考慮し、5回の内1回を選択して参加できる開催方法を取り入れた。				成果指標 実績値 達成率 6.3回 90%				・経験年数2～5年の教職員を対象に、授業研究・人とかかわる力を高めるための初期層教職員研修を実施した。				成果指標 実績値 達成率 6.4回 91.4%			

3. 今後の方向性

※課内協議を経て管理職が記入してください。					平成21年7月30日協議実施	平成22年6月7日協議実施					平成23年4月15日協議実施						
今後の方向性 *根拠欄は、なぜその「成果の方向性」を選んだか？なぜその「コストの方向性」をえらんだか？別紙「評価の視点」を参照してください。	成果の方向性	拡充				成果の方向性	拡充				成果の方向性	拡充					
		現状維持			○		現状維持			○		現状維持			○		
方向性を実現するため実施すること（改革案）	前年度改革案の実施状況	縮小				縮小				縮小							
		休廃止				休廃止				休廃止							
		コストの方向性						コストの方向性						コストの方向性			
		★上記を選択した根拠 研修は欠かせないが、学校現場を空けて研修には臨めない。時間が限られているので、一人あたりの研修参加回数には限度がある。						★上記を選択した根拠 必要な研修は多岐に渡り、専門性も増してきている。研修体制の見直し、精選を図るとともに、受講者による選択の幅を広げる必要がある。						★上記を選択した根拠 新指導要領実施にあたり、教職員の実践的指導力および専門的識見をより一層高めていく必要がある。			
		①研修内容の充実 ②研修参加者の効率的な循環（職務に応じた研修は受講者が固定しがち。初期層教員の増加も著しいので、参加者をかえていくよう促す。）						①研修内容の充実 ①悉皆研修は精選し、受講者の必要性に応じた希望研修を開設。 *「悉皆研修」…対象者全員が必ず受講する研修。						①経験年数に応じた「授業力」・「児童・生徒とかかわる力」の向上を図るための悉皆研修の充実 ②専門性を高めるための希望研修の充実			
		□実施 ■一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。						■実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。						■実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。			
		①は実施。②は未実施。															